

## 190 第4類 消防設備士過去問題集 鑑別編 大改訂第1版 正誤表

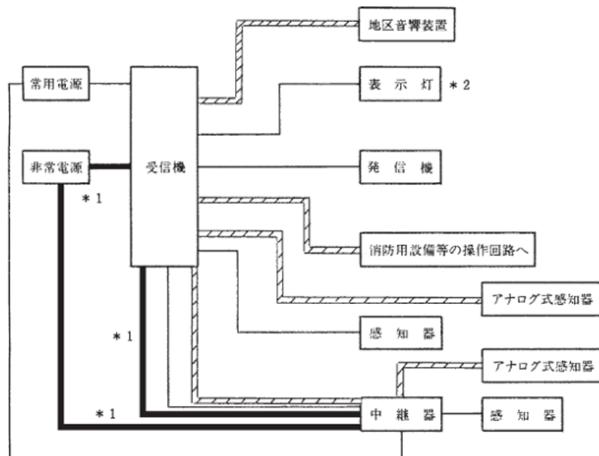
本書の掲載内容に下記の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

ページ	訂正箇所	誤	正
p.50	中央図の左	(A) m以内 (B) m以内	(B) m以内 (C) m以内
p.54	設問1の問題文に追加	なお、Aについては、定温式ではないものとする。	
p.140	下から7行目	⇒<G型受信機の火災表示試験>	⇒<G型受信機のガス漏れ表示試験>
p.164	5行目 設問2	中絶器を介する・・・・	中継器を介する・・・・
	解説 設問2 耐火配線工事 工事の方法	(埋設深さは壁体等の表面から10m m以上)。	(埋設深さは壁体等の表面から10mm以上 上。但し、合成樹脂管は <u>20mm以上</u> )。
p.193	解答 設問2 最下行	埋設深さは壁体等の表面から <b>10mm</b> 以上としなければならない。	埋設深さは壁体等の表面から <b>20</b> mm以上と しなければならない。

### 〈補足〉

P192,問題6のCについて:下図、平成14年9月30日、消防予第282号の耐火、耐熱配線の図より、Cは  
\*1の部分になり、受信機に予備電源が内蔵してあれば受信機～非常電源の間は一般配線でよいという解釈  
の元に、解答を一般配線としてあります。

#### ⑤ 自動火災報知設備



(――は耐火配線、=====は耐熱配線、——は一般配線を示す。)

注 \*1 中継器の非常電源回路（受信機又は中継器が予備電源を内蔵している場合  
は一般配線でよい。）

\*2 発信機を他の消防用設備等の起動装置と兼用する場合、発信機上部表示灯  
の回路は、非常電源付の耐熱配線とすること。